

蝸蠃

ぬかつきむしまたあはれなり、さる心地に道心をおこして、つきありくらんよ、思ひもかけずく  
らきところなどに、ほとくとしありきたるこそをかしけれ。

〔倭名類聚抄十九〕蝸蠃 爾雅集注云、蝸蠃、蝸翅二音和名與奈無之、今穀米中蠹、小黑虫也。

〔箋注倭名類聚抄八名〕所引爾雅、蝸蠃、強蚌也、說文、蝸蠃、強羊也、然則蝸字从女爲正、从虫俗字、與蝮

蝸字自別、郭璞曰、建平人呼爲蚌子、音芋、姓、郭注方言云、米中小黑甲蟲也、郝懿行曰、此蟲大如黍米、

赤黑色、呼爲牛子、音如甌子、登萊人語也、廣東人呼米牛、紹興人呼米象、並因形以爲名、段玉裁曰、宋

本說文及釋文所引皆作羊、當音陽、今江東人謂麥中小黑蟲爲羊子、是也、郭璞音恐未諦、徐鉉本作

蚌、李燾本作芋、皆非是。

〔和漢三才圖會五十三〕蝸蠃 強蚌 和名與奈無之 與奈者米也 俗云虛空藏略

按俗呼米稱菩薩、隨呼此蟲曰虛空藏、其形小似蚤而赤黑色、長喙兩鬚、六足、跋行甚疾、

〔倭名類聚抄十九〕鳥毛虫 兼名苑云、髯虫、一名鳥毛虫、和名加波無之

〔箋注倭名類聚抄八名〕加波无之、有毛化爲蝶、見堤中納言物語、則知今俗所謂介牟之也、爾雅、蝮蝸

蝮、說文、蝸、斯墨、陶弘景曰、帖、蝸、蝸蟲也、此蟲多在石榴樹上、俗爲蝸蟲、其背毛亦螿人、陳藏器云、其蟲

好在果樹上、背有五色綢毛、刺人有毒、欲老者口中吐白汁、凝聚漸堅、正如雀卵、子在其中、作蛹、以麤

爲繭、羽化而出、作蛾、是可以充介牟之也。

〔堤中納言物語〕むしめづる姫君

てふめづるひめ君の住み給ふかたはらに、あせちの大納言の御むすめ、心にく、なべてならぬ  
さまに、おやたちかしのつき給ふことかぎりなし、このひめぎみのの給ふ事、人々のはなやてふや  
とめづるこそは、かなくあやしけれ、人はまことあり、ほんぢたづねたるこそ、心ばへをかしけれ  
とて、よろづのむしのおそろしげなるを取りあつめて、これがならんさまをみると、さまぐ

鳥毛蟲